

大相撲の歴史と深川②

昭和の大横綱 大鵬

江東区深川江戸資料館

はじめに

戦後の流行語に「巨人・大鵬・卵焼き」という言葉があります。これはその当時、子どもたちに人気がある3つを並べたものです。

この、昭和の大横綱・大鵬こと納谷幸喜氏の顕彰コーナーが深川江戸資料館1階ロビーにオープンしました。大鵬は、長年の貢献に対して平成21年に江東区初の名誉区民として顕彰されました。コーナーではその偉業を紹介しています。

本号では、横綱大鵬顕彰コーナーのオープンを記念し、特別号として大鵬の業績や江東区との関わりについてみていきます。

1. 第48代横綱大鵬幸喜

(1) 生い立ち～入門

大鵬は昭和15年(1940)に樺太^{からふと}で生まれました。日本が皇紀2,600年祭で沸いた年で、これにあやかって幸喜と名付けられたと言います。同20年、5歳の頃、父と別れ、母・兄弟と共に北海道に移り住みました。11歳から16歳までを弟子屈町川湯温泉で過ごします。

相撲との出会いは、同31年(1956)、巡業にきていた二所ノ関部屋の稽古^{けいこ}を見学したことでした。そして、16歳で角界入りした大鵬は、師匠(元大関・佐賀ノ花)の教えを受け、横綱への道を歩むこととなります。師匠からの稽古の指示を継続して取り組んだことで知られており、まさに大鵬は並み外れた努力の末に横綱まで上り詰めたといえます。

(2) 柏鵬時代

幕内時代、初めて敗れた相手が柏戸^{かしわど}でした。初対戦は昭和35年(1960)1月場所で、新入幕・大鵬が、初日から11連勝で迎えた12日目に立ち上がりはだかっただのが小結・柏戸でした。勝負は「下手出し投げ」で柏戸の勝利。

昭和36年、柏戸と大鵬は横綱に同時昇進し「柏鵬時代」を築いていきます。この横綱の2人同時推



「大鵬幸喜 横綱姿」(相撲写真資料館蔵)

挙は寛政年間の谷風(4代)・小野川(5代)、明治期の常陸山^{ひたちやま}(19代)・梅ヶ谷(20代)、昭和に入り安藝ノ海^{あきのうみ}(37代)・照國(38代)につづき柏戸(47代)・大鵬(48代)は4度目の快記録です。

柏戸と大鵬の対戦は、昭和35年1月場所～昭和44年5月場所の間に37回実現し、大鵬の21勝16敗でした。激しい攻めが得意の柏戸は「剛」、それを受け止め技で対抗する大鵬は「柔」と称され、名勝負を繰り広げます。ところが、病気や怪我が影響し大鵬は徐々に強さに影を落とし、昭和46年(1971)5月場所5日目、新進気鋭の貴ノ花に敗れ引退を決意しました。

(3) 還暦の土俵入り

平成12年(2000)に満60歳の誕生日を迎えた大鵬は、6月に両国国技館において還暦の土俵入りを行いました。これは、相撲界で体を酷使した横綱は短命で、長寿を祝うことは極めて希であったため、還暦の土俵入りは60歳を迎えた横綱が赤い綱を締めて健康長寿を祝う相撲界ならではの行事です。これは大鵬にとって、昭和46年(1971)以来、実に29年ぶりの横綱土俵入りとなりました。露払い、太刀持ちは元横綱の千代の富士、北の湖が務めまし

た。

(4) 業績

大鵬は16歳で角界入りし、「負けない相撲」により多くの勝ち星を得、様々な業績を残しました。幕内生活12年69場所、うち優勝32回は歴代最多の記録です。また、連勝記録としては45連勝を記録し、昭和38年(1963)5月場所には史上初の6連覇を遂げています。このほか敢闘賞(昭和35年1月場所/同5月場所)、技能賞(昭和35年9月場所)を受賞しています。

昭和44年(1969)9月場所初日に、不撓不屈をもって努力研鑽を重ね記録を樹立したことに對し、大鵬の年寄名跡を起こし、相撲協会から一代年寄としての表彰を受けました。これは前代未聞の栄誉でした。

2. 江東区との関わり

(1) 結婚と大鵬部屋

大鵬は人気絶頂の昭和42年(1967・当時27歳)、芳子夫人との結婚を機に深川に居を構えました。その後、昭和46年の引退とともに一代年寄「大鵬」を襲名し、大鵬部屋を創設、弟子の育成にあたりました。この部屋からは、嗣子鵬、巨砲、露鵬らの関取が輩出されています。現在その地は、大鵬企画となって、大嶽部屋のサポートや、大鵬号基金の運営などを行っています。

(2) 福祉活動

昭和44年(1969)は売血から献血への移行期で、献血された血液を患者の元へ届ける血液運搬車が全国で不足していることを知った大鵬が、「大鵬の名前で社会に恩返しをしたい」と立ち上がります。昭和44年から平成21年(2009)までの間には、全国各地の日本赤十字社に合計70台にも及ぶ血液運搬車「大鵬号」を寄贈しています。平成21年9月には70台目を江東区の赤十字血液センターに寄贈しています。このうち現在稼働しているのは6台のみとなりました。なお、この慈善活動は、平成26年(2014)69代横綱白鵬によって復活されました。白鵬のしこ名は大鵬と柏戸に由来しており、名実ともに大鵬の遺志は受け継がれているといえましょう。

(3) 数々の顕彰

大鵬こと納谷氏は、平成21年(2009)1月に江東区初の名誉区民として顕彰され、同年相撲界で初の文化功労者の称号を受けました。次いで現役引退

後、平成3年(1991)に北海道弟子屈町の名誉町民賞、さらにスポーツ功労賞や紫綬褒章等の数々の賞を受賞(章)しました。大鵬は平成25年1月19日、心室頻拍のため死去。72歳でした。翌月、その功績を称え国民栄誉賞が授与されました。

3. 大鵬ゆかりの地

大鵬ゆかりの地では、現在もゆかりの品々を展示し、その業績を紹介しています。

(1) 大鵬相撲記念館(北海道弟子屈町)

大鵬が少年時代を過ごした弟子屈町には、大関時代に愛用した化粧廻しや優勝全32回を誇る優勝額のすべて、座右の銘「忍」の書などが展示されています。他にも、少年時代や入門時代、横綱時代や親方時代を写真や資料とともに紹介し、名勝負・名場面の映画もあり、大鵬の栄光と軌跡を窺うことができます。

(2) 横綱大鵬ギャラリー(秋田県秋田市)

秋田県は、大鵬夫人の出身地です。大鵬も巡業の道中に立ち寄ったといい、当地には「横綱大鵬ギャラリー」があります。当ギャラリーは菓子舗榮太楼の2階に、同じく秋田市出身の東海林太郎音楽館とともに併設されている施設です。雲龍型の横綱や化粧廻しのほか、等身大のパネル等を展示しています。

(3) 大嶽部屋(東京都江東区)

昭和46年(1971)、その業績から一代年寄・大鵬を襲名、翌年、二所ノ関部屋から独立して江東区清澄に大鵬部屋を創設しました。

のちに平成16年(2004)元関脇・貴闘力が年寄・大嶽を受け継ぎ、交代し、部屋の名称も大鵬部屋から大嶽部屋に変更し、その後、元十両・大竜が継承しています。同じ江東区内には大鵬が眠っている妙久寺もあります。



横綱大鵬顕彰コーナーの様子